

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒に育みたい力をつけ希望進路を実現するための教育課程の編成と履修指導の充実を図る。</p> <p>②学力向上を図り学習意欲を高めるために言語活動など生徒の主体的な学習活動を積極的に取り入れた授業改善を進める。</p>	<p>①今後の本校のあり方を踏まえた教育課程、履修指導を具体的に検討する</p> <p>②学力向上につなげる授業内容の改善と授業展開の工夫を行う。</p>	<p>①生徒の履修指導に役立つ履修モデルパターンを作成する。</p> <p>①-2 系科目の解消に取り組む。</p> <p>②習熟度別講座設定の科目、教科発展科目の拡充を図る。</p> <p>②-2 授業改善研修会と授業の相互見学を充実させる。</p> <p>②-3 授業や休業中の講習などにおいて生徒の発展的学習の機会を充実させ、生徒の学習意欲を高める。</p>	<p>①生徒の履修指導に役立つ履修モデルパターンを作成することができたか。</p> <p>①-2 系科目解消の計画を立てることができたか。</p> <p>②習熟度別講座の科目、教科発展科目を拡充することができたか。</p> <p>②-2 授業改善研修会を実施することができたか。授業の相互見学を活発化することができたか。</p> <p>②-3 生徒による授業評価において生徒の自己評価を高めることができたか。休業中の講習を充実させることができたか。</p>	<p>①文系理系の主なモデルパターンを作成した。また、それを実際の履修計画表に見本として落とし込み、履修指導に活用することができた。また、新入生から81単位を超える履修指導を徹底し、学習の量も保障した。</p> <p>①-2 カリキュラム検討会議を中心に系科目の解消に向けての計画を立案した。</p> <p>②教科発展科目を拡充するために教科等で改廃する科目、新設科目の協議をおこなった。</p> <p>②-2 授業研修研究会を4回、研究授業週間を6、11月に設定した。授業の相互見学を充実させることができた。</p> <p>②-3 夏期講習の講座は昨年度14講座から23講座に増え、内容も多様になった。</p>	<p>①文系・理系の枠におさまらないパターンについても研究し、モデルパターンとして取り入れていく。</p> <p>①履修モデルパターンから個々の生徒の希望に対応したバリエーションを全ての職員が適切に指導できるように職員研修体制を構築する。</p> <p>①-2履修科目の一部共通化や授業時間数の確保を含めたカリキュラムの検討が課題である。</p> <p>②習熟度別講座や教科発展科目については、現状でも一定程度実施されているが、さらに教科等で実施を検討する。</p> <p>②-2 授業の相互見学後のフィードバックを授業改善につなげることが課題である。</p> <p>②-3 夏期・冬期を通じて生徒のニーズに応える講座設定を教科が行い、早期の周知により受講者を増やす。</p>	<p>・家庭学習や自発的学習を促すことは大事である。そのためには、予習・復習が必要となるような授業にする、当該授業の意味をその都度説明して理解を深める、学習の喜びを知ってもらうことである。</p> <p>・外国につながる生徒について取り出し授業を設置し、一定の効果を上げてきた。「在県外国人特別募集」が始まるので、新たな特別支援枠と従来の枠組みを組合せ、ここの生徒に向けたプログラム作成が必要である。</p> <p>・新1年生にとって時間割作りがわかりにくいので、入学式前にきちんと時間をとって説明できればよい。</p> <p>・履修指導について、ある程度のパターン化が必要である。そして、生徒だけではなく、保護者にもわかりやすい履修指導が進めばよい。また、夏期講習の拡充など学ぶ機会を増やしていく取り組みは保護者の視点から見てもありがたいが、学校側の負担が重くなる点は心配である。</p> <p>生徒のニーズをある程度まとめて、カテゴリー分けをしてアウトプットを効率よくするという作戦も必要である。</p>	<p>①履修モデルパターンを作成することで、職員が共通理解を持って履修指導に臨み、生徒の履修指導に役立てることができた。</p> <p>平成30年度に向けて授業時間を確保することが課題であり、平成29年度行事予定について休業日の短縮等を行った。</p> <p>②発展科目を一部拡充した。習熟度別講座の拡大・改善について検討する。</p> <p>②-2 授業改善研修会、授業の相互見学を行うことができた。</p> <p>相互授業見学後のフィードバックを確実に行うことが課題である。</p> <p>②-3 夏期講習の開講講座は昨年度の14講座から23講座に増加しのべ105名の生徒が受講した。</p> <p>夏期講習の受講者数を増やすことが課題である。ICTを活用した学習機会の充実についての検討を進め、希望者を対象に導入することが決定した。</p>	<p>①学習指導要領の改訂も視野に入れ、系科目の解消を進め、一人ひとりの学力を伸ばし、希望進路の実現につながるカリキュラムを構築する。</p> <p>平成30年度に向けては100分授業95分授業の導入について検討が必要である。</p> <p>②習熟度別講座や教科発展科目について、さらに検討し、生徒の発展的学習の機会を充実させる。</p> <p>②-2 授業見学後のフィードバックに教科として取り組み、さらなる授業改善を進める。</p> <p>②-3 長期休業中の講習について、教科として生徒のニーズに応える講座内容・講座数を設定し、早期に生徒に周知し、実施する。導入したICTの有効な運用について検討を重ねる。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①生徒一人ひとりが互いに尊重しあうことのできる人間関係づくりに努め、支援の必要な生徒に対する支援体制の更なる充実を図る。</p>	<p>①在県外国人枠に対応するものも含めた校内の生徒の支援体制を構築する。</p>	<p>①SC・SSW・教育相談コーディネーター・年次教育相談係で連携し、ケース会議等で情報の共有化をする。</p> <p>①-2 特別枠による在県外国人生徒の受け入れに向け、支援のための組織と具体的支援策を準備する。</p>	<p>①ケース会議等により必要な情報を共有することができたか。</p> <p>①-2 支援のための組織と具体的支援策を準備することができたか。</p>	<p>①年度当初の全定合同の生徒情報交換会やケース会議、文書回覧等で情報の共有化を図った。夏季休業中に綿密な情報交換を行い、対策に向けての会議を設定した。</p> <p>①-2 外国人生徒支援担当者会議を発足させ、必要な情報、資料を収集し、各支援策に向けて業務を具体化した。</p>	<p>・人間社会の明るい面、楽しい面にも光を当て、博愛精神が醸造されることに期待する。</p> <p>・SNSに依存しすぎないように、また、トラブルに巻き込まれないよう、保護者も含めて指導に努めてほしい。</p> <p>・生活体験発表会で自己の体験を確認し皆の前で発表する。そして他者の体験を聞き、理解し合うことは大変素晴らしい。</p> <p>・「在県外国人特別募集」については、より良い組織作りが望まれる。地域の教育力、人材を生かしながら協働の支援体制の具体化が必要である。</p>	<p>①外国人生徒支援担当者会議を発足させ、支援の準備を具体的に開始した。また、外国につながる生徒を対象とした学習支援を始めることができた。受け入れのための研修会を3月に実施した。</p> <p>多くの生徒に計画的な学習支援をすることが課題である。</p>	<p>①外国人生徒支援担当者会議と外部の組織や他校と連携を進めながら、検討を重ねる。学校全体で受入れ体制の充実を進め、校内研修・外部機関の見学等も実施する。</p>	

		②社会の中で生きていくために必要な力を育成する。	②挨拶運動を充実、発展させ、生徒のコミュニケーション能力を育成する。	②-1 毎月、職員・PTA・生徒会が連携してあいさつ運動を実施する。 ②-2 挨拶についての生徒アンケート意識調査を行う。	②-1 あいさつ運動への参加人数を増やすことができたか。 ②-2 生徒の挨拶についての意識を高めることができたか。	②-1 参加人数が増え、毎月、職員・保護者・生徒の三者がそろって実施する形が整った。 ②-2 自分からあいさつをしたり、話しかける生徒が増加している。	②-1 生徒会役員以外の生徒の参加人数を増やす。 ②-2 挨拶についての生徒アンケート意識調査を作成した。アンケート調査を実施した。	・挨拶運動の参加者が増えたことは大変喜ばしい。今後も盛り上がっていくことを期待する。 ・他校の優れた事例を研究し、学力に偏らない社会で役に立つ人間形成に向けてマナー教育を取り入れてほしい。	②自分からあいさつをしたり、話しかける生徒が増加するなど、生徒の成長がみられる。アンケートにより生徒が挨拶を大切なことと考えていることが把握できた。行動に表わすことができるよう指導することが課題である。	②あいさつ運動について、学校全体の取り組みとして職員全員が参加できる体制を整える。
3	進路指導・支援	生き方や社会を学ぶ機会の充実に、生徒の希望進路実現のための支援体制を充実させる。	卒業までのキャリア支援の見直しを図る。	希望進路を実現させるために3年間の進路指導計画の見直しを行う。 [再掲]生徒の履修指導に役立つ履修モデルパターンを作成する。	3年間の進路指導計画の見直しを行うことができたか。 [再掲]生徒の履修指導に役立つ履修モデルパターンを作成することができたか。	進路希望実現に向けて3年間で81単位以上の履修を促すガイダンスを1年次に行った。また、補習指導を含めた学習支援やキャリア支援員による外国籍生への指導を実施し、きめ細かな進路指導を行った。	3年間を見通した進路指導において、マイコンパスシートを効果的に活用する。定時制同様キャリアプランニングを全日制でも整備する。	・生活体験発表会のような、それぞれの取り組み等を発表しあう場をつくり、切磋琢磨する環境がほしい。 ・外国につながる高校生に向けての「大学進学支援プログラム」との連携も支援体制構築の重要な課題である。 ・「外国籍生徒」の在留資格における問題点と課題を理解する取り組みが重要である。 ・1年次から早いタイミングで各種進路情報を提供してもらいたい。 ・「81単位の履修を促す」だけで、どれだけの生徒がキャリアを描けたのかが理解できない。学校が6月に行っている進路説明会などを充実させ、1, 2年次にも参加させてはどうか。	・1年次で履修ガイダンスを実施するとともに、進路先の講師を招く進路ガイダンスや卒業生による進路講話、職場体験などの機会を通じて、生徒のキャリア意識を涵養した。次年度以降も充実させたい。	・在学期間中に生徒にしっかり学んでもらうため、推薦入試の推薦基準に履修単位数を加味することについて検討を進める。 ・キャリアプランニングの充実をはかり、マイコンパスシートを活用してわかりやすい履修指導、進路指導を行う。
4	地域等との協働	①地域に貢献し地域に信頼される学校づくりを進める。 ②生徒が地域の中で学ぶ機会の充実に努める。	より多くの生徒が地域と関わる機会を充実させる。	部活動、委員会活動を主体とした地域交流を充実させる。	部活動、委員会による地域交流の機会が増えたか。	養蜂部、サッカー部、バスケットボール部、クッキング部、茶道部、ボランティア部などの部活動が地域との交流を行うことができた。 川崎区のハニーフェスタを本校で開催し、地域の方々と本校文化部の交流を深めることができた。 川崎区役所の協力により「高校生のための赤ちゃん講座」（仮称）を開催できることとなった。	H P、掲示板での外部への情報発信とともに、校内にも周知し、参加している生徒の達成感をさらに高める方策を構築する。	・同窓会の総会当日、毎年茶道部で茶席を設け、お茶を振る舞ってもらっている。現役とOBの交流もでき、OB一同感謝している。 ・PTA 内でも、「ミツバチプロジェクト」と連動する形で花壇を整備し、花を植え、育てることで地域の方々とコミュニケーションが良くなっていると聞く。地域連携に関しては間違いなく良い方向に進んでいると思われる。	養蜂部、サッカー部、バスケットボール部、クッキング部、茶道部、ボランティア部などの部活動が地域との交流を行うことができた。 川崎区のハニーフェスタを本校で開催し、地域の方々と本校文化部の交流を深めることができた。 3月に「高校生のための赤ちゃん講座」を実施した。今後、さらに活動を広げ継続的に交流できるようにする。	地域等との協働は、学校行事や部活動、委員会活動、職場体験（インターンシップ）を通じて、生徒が地域の方や小中学生と交流する機会を毎年設ける。
5	学校管理 学校運営	①生徒、保護者、地域に信頼される学校運営を行う。 ②教職員間での情報の共有化と協力体制の構築を図る。	①HP等の情報発信を充実させる。 ②校内研修を充実させる。	①HP担当者との連絡を密にし、内容の更新を迅速に行う。 ①-2 学校案内や説明会の内容を精選し、より質の高い広報活動を展開する。 ②校内の協力体制の構築につながる効果的な校内研修を実施する。	①HPの内容の更新を月に2回以上行うことができたか。 ①-2 本校への理解を深めることが出来たか（アンケート） ②校内研修の実施回数。	①HPの内容の充実は図られているが、月2回の更新が実施できないこともあった。 ①-2 学校案内について、部活動の情報や生徒の声等の発信に重点をおいた内容に精選した。また、説明会への本校生徒の関わりも増え、来校者アンケートも概ね好評であった。 ②4月当初の校内研修において学校教育計画策定に係る意見交換を行い、計画についての共通理解を深めたほか、合計12回の校内研修を実施することができた。	①HP担当者同士の連携をより密にし、更新毎に職員にも状況を報告することで月2回以上の更新を行う。 ①-2 本校の目指すところをより丁寧に発信できるように広報活動を展開する。 ②校内研修の時間を確保することが課題である。	・新校として新たな特色作りが定着し喜ばしい。一方、歴史を経て連続と続く伝統校であることの認識も、教員・生徒・保護者・卒業生で共有したい。 ・HPは大変良くなった。引き続き、マメな更新を望む。Webサイトの周知、特に保護者に対する周知がうまくいっているか気になる。計測が可能であれば、更新頻度の他にPV（ページビュー）の増加率を目標に設定してはどうか。	①HPの内容を充実させることができた。夏・秋の学校説明会において運営に携わる生徒を増やし、生徒の活動の姿を来場者に発信することができた。また、在県外国人等特別募集に対する説明会は別室で通訳をつけて行った。今後は情報発信の質と量を高めていく。 ①-2 定時制において中学校教員向け授業見学会を開催し、安心して受検してもらえるような発信の場となった。 ②校内研修での意見交換等を経て、学校教育計画やグランドデザインを策定することで、教職員間で学校教育計画についての共通理解を深めることができた。	①HP更新の回数を増やすよう、関係グループ等の連携を密にする。どの受検生にもわかりやすい説明会を目指し、今まで以上に丁寧に説明会の運営を行う。 ①-2 授業見学会について対象や時期、回数などを検討し、より広げていく。 ②新着任者を含めた4月当初の校内研修を毎年実施する。